経済政策論 II

科目ナンバリング ECP-212
選択 2単位

二村 英夫

1. 授業の概要(ねらい)

経済政策論 I で学んだ基本的なマクロ経済の枠組みや経済政策の効果を整理したうえで、閉鎖経済、開放経済における政策効果を異なる国際通貨制度や金融自由化・グローバル化が進展するなかで明確にします。また、期間をさらに長く見た場合の1国の経済成長の要因を理論的にみてみましょう。さらに、金融政策の問題、国際的な政策協調、政府負債と財政赤字など今日の重要な問題を理解することを狙いとします。

2. 授業の到達目標

経済政策の基礎理論の理解とこれまでの主要な経済政策の実績を振り返ってみて、政策目的、実際の効果を理解することを到達目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

出席状況(25%)、授業中に出す課題(10%)、中間テスト・期末テスト(65%)から総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

参考文献

N.グレゴリー・マンキュー 『マクロ経済学2(第4版)応用編』 東洋経済新報社

P.R.クルーグマン 『国際経済学 理論と政策 下 金融編』 丸善出版

5. 準備学修の内容

授業の後に授業で配布した資料をベースに復習を心がけてください。また、日頃から金融経済のニュース報道に関心を持ってください。

6. その他履修上の注意事項

原則、経済政策論 I を履修し、この内容を理解したうえで経済政策論 II を履修して下さい。経済政策論 I が基礎編、経済政策論 II は応用編となります。

第7回目の「閉鎖経済、開放経済における経済政策の効果」についてはオンライン授業になります。

社会状況及び履修状況によっては、2020年度と同様、オンライン授業で実施する場合があります。この場合、授業資料、音声データ、自習用問題などを中心に講義して参ります(常にLMSの該当科目に注意しておいてください)。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 閉鎖経済における経済政策の効果(IS/LMモデル)
- 【第3回】 開放経済における経済政策の効果(マンデル・フレミング・モデル)
- 【第4回】 短期から長期へ:物価水準の変化を伴うマンデル・フレミング・モデル
- 【第5回】 総供給およびインフレーションと失業の短期的トレード・オフ
- 【第6回】 すべての親モデル(これまでの視点を包括したモデル)
- 【第7回】 閉鎖経済、開放経済における経済政策の効果(オンライン授業)
- 【第8回】 成長理論(超長期の経済の捉え方)
- 【第9回】 ロバート・ソローの成長理論(貯蓄率の役割)
- 【第10回】 成長理論(技術進歩、人的資本、内生的成長論)
- 【第11回】 経済成長の源泉の計算(ソローの残差、リアルビジネスサイクル論)
- 【第12回】 安定化政策
- 【第13回】 国際的な政策協調について
- 【第14回】 政府負債と財政赤字
- 【第15回】 まとめ